

ほいくえのわ

合同会社 マム・スマイル

【企業主導型保育】保育園フォレスト・志村三丁目

(東京都板橋区坂下1-18-19)

2022年3月27日 (日)

10:00~14:00

【大切にしているのはこんな保育】

☆子どもも保育者も個性を大事にしたい、その要は情報共有！

「私たちが一番大事にしていることは、情報共有です」と坂東さん。毎日の昼礼会議では特製フォーマットを用いて、園児のこと、ささいな気になりごとやアイデアを引き出すことに努めています。思いつき、ひらめきを付箋に書き全員が見るボードに貼っておく。いつまでに話し合うか、決めるかといったことをすぐに検討する取り組みは、職員からの発案で根付いた慣習とのこと。事務所内のさまざまな掲示物、進捗確認、タスクを見える化するための書類が多いと感じました。「子どものことやお互いの動きを知っていると、働きやすくなる」という実感があるからこそ、意見や自信や責任を持って、工夫しながら働けるのですね。

☆子どもの主体性を育む「楽習保育」をベースに

「自分のひらめきを形にした保育ができる、みんなで考えられる、それが本当に楽しい！」という保育士の声を聴きました。全職員が学ぶプログラム（楽習保育）があるからこそ、それを基にアレンジや創造、実践ができる。自由な発想や学ぶ姿勢を大切にするためには、共通認識できる何かが必要です。



全員の動き方が一目瞭然、連携も休憩もスムーズ！

【目指しているのはこんな保育】

☆「ほめる・はげます・ひろげる」をもっともっと

「ほめる・はげます・ひろげる」を言葉かけ指針に定めています。どうしてもできないの？と言われず、できないから助けてほしい！と大人も子どもも言えることが、この園の一番好きなところだと話してくれたのは、現場をまとめる主任の方。こういった言葉かけの意識が、よりよい保育に必ず繋がると信じています。（写真は科学あそび中！）



【お話しくださったのはこの方】



職員のアイデアやひらめきを大切にしたい、保育者としてのポテンシャルを最大限に発揮できる場にしたい、専門性のみならず社会人としてのスキルも高めてほしい。そのためにも「分からない」「言えない」「判断できない」のモヤモヤを極力なくす。保育園フォレストの指針、仕組みはすべて「よりよい保育のため」に繋がっています。

異業種の方が集う外部研修にも、職員は積極的に参加。「ここでの保育以外の世界」に触れることが刺激になったり、保護者対応に役立ったり、学びや自信に繋がったり。オープンな雰囲気を感じる、とても素敵な保育園です。

（右：施設長代理 加藤 昌弘さん

左：施設長 坂東 愛子さん